

2013年4月16日

～ 大豆イソフラボン由来「エクオール」に皮膚バリア機能改善効果を発見 ～

ノエビアグループは、大豆イソフラボン由来の「エクオール」に、皮膚バリア機能の改善効果をはじめとする、皮膚への有用性を見出しました。この成果は今年の基本化粧品の開発に応用する予定です。

第11回アジア化粧品技術者会研究発表会(ASCS) バリ大会にて発表

ノエビアグループは、これまで健康や美容効果の報告された有用素材である大豆イソフラボンに関する研究を進めてきました。その結果、大豆イソフラボン的一种であるダイゼインが腸内細菌によって変換されてできる「エクオール」に、皮膚バリア機能の改善効果をはじめとする皮膚への有用性があることを明らかにしました。この研究成果を、2013年4月23日～25日にインドネシアのバリ島で行われる「第11回アジア化粧品技術者会研究発表会(ASCS)」にて発表いたします。株式会社ノエビアでは、この研究成果を今年の基本化粧品の開発に応用する予定です。

【研究の背景】

大豆イソフラボンは女性ホルモン様作用を持つことが広く知られており、健康や美容効果の報告された有用素材として健康食品や化粧品など、様々な分野で利用されています。近年、イソフラボンの一種であるダイゼインが腸内細菌によって還元され、「エクオール」に変換されることが分かっており、「エクオール」は大豆イソフラボンと比べて女性ホルモン受容体への結合性が高いことが報告されています。これらのことから「エクオール」には大豆イソフラボンに比べて高い美容効果が期待されるものの、肌への有用性は詳しく分かっていませんでした。

【研究の成果】

- 1) 正常ヒト表皮角化細胞に対しエクオールを作用させ、表皮角化細胞に関連する遺伝子発現の変化を解析した結果、「エクオール」がセラミド合成やタイトジャンクションに関連する遺伝子の発現を促進し、皮膚バリア改善効果を有する可能性を明らかにしました。
- 2) 診断キット「ソイチェック」(ヘルスケアシステムズ)を用いて腸内のエクオール産生菌保有者と非保有者に分けて肌状態を測定した結果、両者の違いはありませんでした。しかしながら、「エクオール」を皮膚へ塗布した結果、エクオール産生菌非保有者の経皮水分蒸散量を低下させ、皮膚のバリア機能改善に対して有用であることを明らかにしました。

<このリリースに関するお問い合わせ>

株式会社ノエビア 東京都中央区銀座 7-6-15 広報・宣伝部 後藤・森山
TEL 03-5568-0349 FAX 03-5568-0441